

平成 25 年 度
学 力 検 査 問 題

①

国 語

注 意

- 1 開始の合図があるまで問題用紙を開いてはいけません。
- 2 解答用紙は問題用紙の中に挟んであります。
- 3 問題用紙は表紙を除いて6ページで、問題は□一から□四まであります。
- 4 開始の合図があったら、まず、問題用紙および解答用紙の所定の欄に
受検番号を書きなさい。
- 5 答えはすべて解答用紙の指定された欄に書きなさい。

受 検 番 号

□ 次の一〜五の問いに答えなさい。

(一) 次の1〜3の文の——線部の漢字の読みがなを、それぞれ書け。

1 鉄分を含有する食品をとる。 2 高知県の産業の振興を図る。

3 友人を生徒会長に推す。

(二) 次の1〜3の文の——線部のカタカナを、それぞれ適切な漢字に直して書け。

1 新聞広告でセンデンする。 2 道路をカクチョウする。

3 友人の誕生日をイワう。

(三) 次の行書で書かれた漢字を、楷書かいしよで書いたときの総画数を数字で書け。

護

(四) 「自分の都合のよいように言ったり、したりすること」という意味をもつ四字熟語を、次の

ア〜エから一つ選び、その記号を書け。

ア 大義名分

イ 我田引水

ウ 馬耳東風

エ 付和雷同

(五) 次の俳句とその鑑賞文を読み、後の1～5の問いに答えよ。

著作権保護のため掲載していません。

- 1 鑑賞文中の に当てはまる言葉として適切なものを、次のア～エから一つ選び、その記号を書け。
ア すると イ それとも ウ 例えば エ 要するに
- 2 鑑賞文中の~~~~線部ア～エの言葉のうち、助動詞であるものを一つ選び、その記号を書け。
- 3 鑑賞文中の——線部1の「遠近」と同じ組み立ての熟語を、次のア～エから一つ選び、その記号を書け。
ア 雅俗 イ 人造 ウ 遷都 エ 歓喜
- 4 鑑賞文中の——線部2の「まるで」は、呼応の副詞である。呼応の副詞を含む文を、次のア～エから一つ選び、その記号を書け。
ア 駅は図書館よりもっと遠くにある。 イ 牧場で牛がのんびり草を食べる。
ウ 成功するまで決してあきらめない。 エ あなたに会えてとてもうれしい。
- 5 「渡り鳥みるみるわれの小さくなり」と同じ季節を詠よんでいる俳句を、次のア～エから一つ選び、その記号を書け。

著作権保護のため掲載していません。

ア イ ウ エ

二 次の文章を読み、後の(一)～(四)の問いに答えなさい。

著作権保護のため掲載していません。

(一) 文章中の [] に当てはまる言葉として適切なものを、文章中から漢字三字でそのまま抜き出して書け。

(二) 文章中の——線部1に「以上のこと」とあるが、これはどういうことを指しているか。その内容を次のような一文にまとめるとき、 [I] ・ [II] に当てはまる適切な言葉を、それぞれ十五字以内で書け。ただし、句読点その他の符号も字数に数えるものとする。

趣味に使うエネルギーを減らしても、仕事に使うエネルギーが [I] し、趣味に使うエネルギーを増やすと、仕事に使うエネルギーが [II] ということ。

(三) 文章中の——線部2に「心のエネルギーの出し惜しみ」とあるが、人がこのような行動をとるのはどういう考えがあるからか。それについて、筆者が考える理由を次のような一文で説明するとき、 [] 内に当てはまる言葉を、文章中から十一字でそのまま抜き出して書け。ただし、句読点その他の符号も字数に数えるものとする。

「心のエネルギーの出し惜しみ」をする人は、新しい鉦脈の発見よりも、エネルギーを節約して [] のみに依存しようとする考えがあるから。

(四) この文章で述べられている内容と合っているものを、次のア～エから一つ選び、その記号を書け。

ア 人間には、身体的なエネルギーだけでなく、心のエネルギーというものがあり、この心のエネルギーはうまく使うほうがよいのである。

イ 人間には、生まれもった心のエネルギーの量があり、一生のうちに使える量が決まっているので、配分を考えて用いるほうがよいのである。

ウ 人間は「もの」でもないし「機械」でもない、命あるものだという事実こそ人間のかくれた可能性を引き出す鉦脈なのである。

エ 人間は時にイライラしたり暴発したりしながらも、他人に対して効率的に対応することで、心の鉦脈を発見できるのである。

三 次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

著作権保護のため掲載していません。

問い この文章全体で筆者は「希望」について、どのように述べているか。その内容を、次の条件1～3にしたがってまとめよ。ただし、句読点その他の符号も字数に数えるものとする。

条件1 全体を七十字以上九十字以内の一文にまとめること。

条件2 文頭は「希望は」で始め、文末は「である。」で終わること。

条件3 「安心」と比較しながら、「社会」とかかわらせて書くこと。

〔四〕 次の文章を読み、後の(一)～(四)の問いに答えなさい。

さるほどに、ゐのしし、子どもあまた並み^なるける中に、ことにちひさきゐのしし、我慢おこして、「総の司^{のかみ}となるべし」と思ひて、齒を食ひしぼり、目を怒らし、尾を振つてとびめぐれども、傍輩^{はろばい}ら一向これを用いず。かのゐのしし^ア氣を碎^くひて、「所詮^{しよせん}かやうのやつばらに与^くせんよりは、他人に敬はればや」と思ひて、羊どもの並み^なるる中に行きて、前のごとく振る舞ひければ、羊勢^せひにおそれ逃^いげ隠れぬ。さてこそこのゐのしし本座^{ほんざ}を達してゐける所に、狼^{おおかみ}一^{びき}疋^は馳^はせ来^{きた}りけり。「あはや」とは思へども、「われはこれ主^{あつち}なれば、かれもさだめておそれなん」とて、さらぬ体^{てい}にてゐける所を、狼とびかかり、耳をくはへて山中^{やまなか}に到^{いた}りぬ。羊もつて合力^{かふりそ}せず。をめき叫^{こゑ}び行くほどに、かのゐのししの傍輩、この声を聞きつけて、つひに取りこめ助けにけり。その時こそ、「無益の謀^{むほん}反^{はん}しつるものかな」と、もとのゐのししらに降^{くだ}参^ましける。

そのごとく、人の世にある事も、よしなき慢気をおこして、人を従へたく思はば、かへつてわざはひを招くものなり。つひにはもとのしたしみならでは、真の助けになるべからず。

〔伊曾保物語〕による)

(注) 我慢おこして：強く自負して。 総の司：全体のかしら。 傍輩：仲間。

かやうのやつばらに与せんよりは：このようなものどもの仲間にいるよりは。

本座を達して：思いを遂げて。 狼：おおかみ。 あはや：ああ。

さらぬ体にて：なんでもないうすで。 合力：援助。 したしみ：親しいもの。

(一) 文章中の~~~~線部の「くはへて」を現代仮名遣いに直して、~~~~線部全部をひらがなで書け。

(二) 文章中の——線部ア、エの言葉のうち、行為をするものが他の三つとは異なるものを一つ選び、その記号を書け。

(三) 文章中の——線部に「かれもさだめておそれなん」とあるが、これはどのような考えを述べたものか。その説明として最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、その記号を書け。

ア 羊も恐れたにちがいないという考え。 イ 羊もたぶん恐れるはずだという考え。

ウ 狼も恐れたとは思えないという考え。 エ 狼もきつと恐れるだろうという考え。

(四) この文章で述べられている内容の説明として最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、その記号を書け。

ア いのししが周囲のものに対して強欲な態度でいたたために仲間を失ったことをとおして、人間も何事につけても欲深くふるまうのはよくないという教訓を述べている。

イ いのししが周囲のものに対して作り話ばかりしていたために誰^{だれ}からも信用されなくなつたことをとおして、人間もうそをついてはいけないという教訓を述べている。

ウ いのししが周囲のものに対して高慢な心をおこして接したために災難を招いてしまつたことをとおして、人間もおごり高ぶつてはいけないという教訓を述べている。

エ いのししが周囲のものに対して情けをかけたために仲間が危険な目にあつたことをとおして、人間もむやみに親切心をおこすのはよくないという教訓を述べている。

